

1~3月期の業況は低下
【特別調査】 「外国人・海外情勢と中小企業」

【調査要領】
 調査時点：2025年3月上旬
 調査対象：西兵庫信用金庫お取引先103社
 調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査
 調査企業数：103社
 調査票回収：103社
 調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (デ・イフュージョン・インデックス) による分析
 景況の方向感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

回答企業の業種別内訳

業種	回答企業数
製造業	32
卸売業	11
小売業	17
サービス業	19
建設業	19
不動産業	5
総計	103

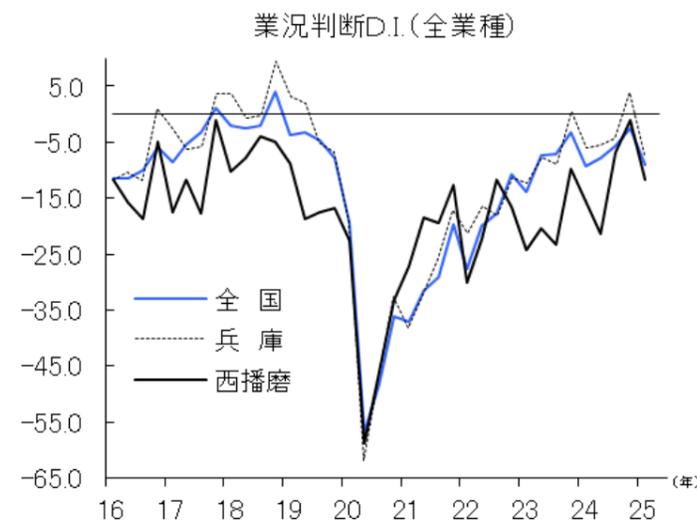
分析例

	良い	普通	悪い	合計
回答数	10	5	5	20

(良い)50% - (悪い)25% = (D.I.)25

全業種総合

~景況感は大半の業種で前期より悪化~
 2025年1~3月期（今期）の業況判断D.I.は△11.7と、前期比10.7ポイント悪化が強まった。前期に比べ業況が「良い」と回答した企業が8.7ポイント低下し、「悪い」と回答した企業が1.9ポイント上昇したことによる。前年同期比の売上額判断D.I.は1.0と、前期比7.7ポイント悪化した。同収益判断D.I.は△17.5と、前期比11.7ポイント減少幅が拡大した。業種別の業況判断D.I.は、建設業が持ち直した一方で、製造業、卸売業、小売業、サービス業は悪化し、不動産業は横ばいとなった。
 全国の業況判断D.I.は△9.1と前期比6.5ポイント悪化が強まり、兵庫県では△7.1と同11.1ポイント悪化に転じた。

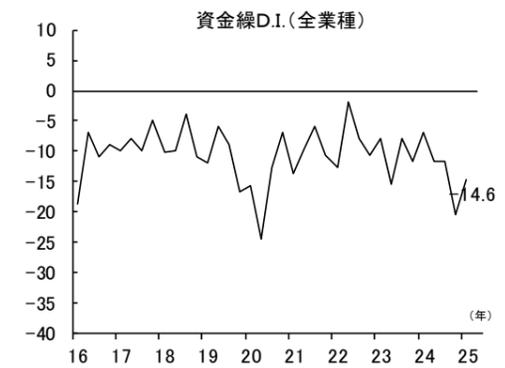


過去4四半期の業況判断D.I.を平均して判定

【業種別天気図】

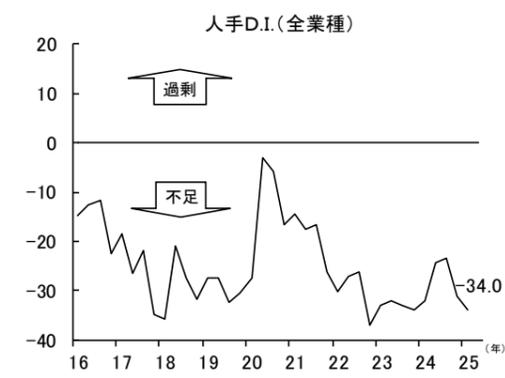
時期	2024年10~12月	2025年1~3月	2025年4~6月(見通し)
総合	☁️	☁️	☁️
製造業	☔️	☔️	☁️
卸売業	☁️	☁️	☁️
小売業	☔️	☔️	☔️
サービス業	☁️	☁️	☁️
建設業	☁️	☁️	☁️
不動産業	☁️	☁️	☀️

好調 ← → 低調



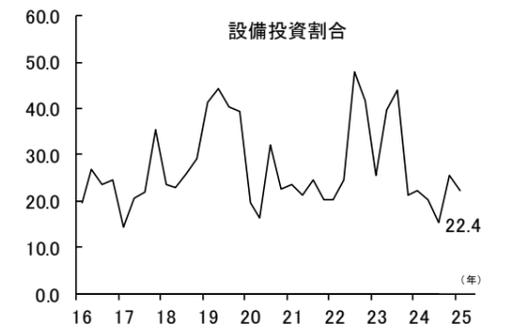
~販売価格判断D.I.・仕入価格判断D.I.はともに上昇が弱まった~
 販売価格判断D.I.は12.6と前期比5.9ポイント上昇が弱まり、仕入価格判断D.I.も35.9と前期比1.0ポイント上昇が弱まり落ち着きを見せた。

~資金繰り判断D.I.は全体では改善~
 資金繰り判断D.I.は△14.6と、前期比5.8ポイント改善した。業種別では、小売業が前期比17.7ポイント、サービス業が前期比5.2ポイント、建設業が前期比15.8ポイント、不動産業が前期比20.0ポイント改善した。一方、製造業は前期比6.2ポイント低下し厳しい状況に転じた。卸売業は前期比横ばいとなった。



~人手過不足判断D.I.は、人手「不足」感が強まった~
 雇用面では、人手過不足判断D.I.が△34.0（マイナスは人手「不足」超）と、前期比2.9ポイント低下し、人手「不足」感が強まった。残業時間判断D.I.は△8.7と、前期比3.9ポイント悪化した。

~設備投資実施企業割合は低下~
 設備投資実施企業割合（不動産業を除く企業のうち設備投資を実施した企業の割合）は22.4%と、前期比3.1ポイント低下した。



~来期の景況感全体では実績比低下の見通し~
 来期の予想業況判断D.I.は△15.5と今期実績比3.8ポイント悪化が強まる見通しである。

業種別の予想業況判断D.I.は、小売業が今期実績比11.8ポイント改善。一方、卸売業が18.2ポイント、サービス業が5.3ポイント、建設業が10.6ポイント、不動産業が20.0ポイント厳しさを増しており、製造業は横ばいとなる見通し。

<経営上の問題点>

経営上の問題点としては、「売上の停滞・減少」が37%、「人手不足」が32%、「原材料高」が30%と多く、その他では「人件費の増加」が24%、「利幅の縮小」が21%となった。

経営上の問題点

順位	全業種	件数	割合
1位	売上の停滞・減少	38	37%
2位	人手不足	33	32%
3位	原材料高	31	30%
4位	人件費の増加	25	24%
5位	利幅の縮小	22	21%

<当面の重点経営施策>

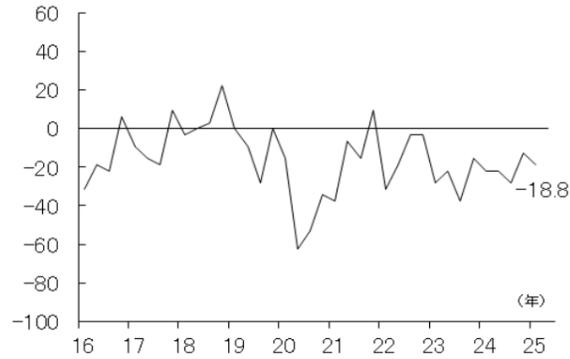
当面の重点経営施策としては、「販路を広げる」が50%、「経費を節減する」が42%、「人材を確保する」が24%と多く、その他では、「情報力を強化する」が17%、「宣伝・広告を強化する」が13%、「教育訓練を強化する」が9%となった。

当面の重点経営施策

順位	全業種	件数	割合
1位	販路を広げる	52	50%
2位	経費を節減する	43	42%
3位	人材を確保する	25	24%
4位	情報力を強化する	17	17%
5位	宣伝・広告を強化する	13	13%
6位	教育訓練を強化する	9	9%

製造業

業況判断D.I.(製造業)



～製造業の景況感は悪化～

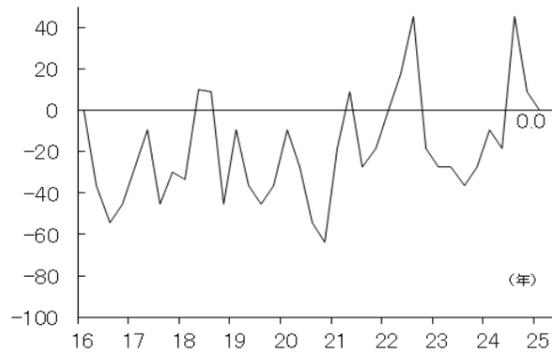
今期の業況判断 D.I.は $\Delta 18.8$ と、前期比 6.3 ポイント悪化した。

前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 3.1$ と、前期比 12.5 ポイント低下し増加から減少に転じた。同収益判断 D.I.は $\Delta 15.6$ と、前期比 9.3 ポイントさらに減少した。

設備投資実施企業割合は 43.8%と、前期比 6.3 ポイント上昇した。資金繰り判断 D.I.は $\Delta 3.1$ と、前期比 6.2 ポイント低下し厳しい状況に転じた。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 31.3$ と、前期比横ばいであった。来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 18.8$ と、今期実績比横ばいを見込んでいる。

卸売業

業況判断D.I.(卸売業)



～卸売業の景況感は悪化～

今期の業況判断 D.I.は 0.0 と、前期比 9.1 ポイント悪化した。

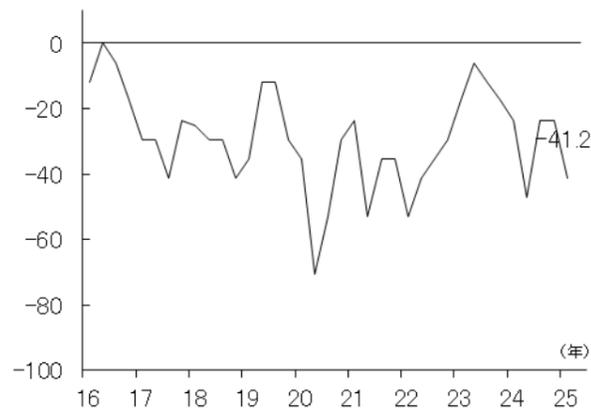
前年同期比売上額判断 D.I.は 9.1 と前期比 9.1 ポイント悪化した。同収益判断 D.I.は $\Delta 9.1$ と、前期比 9.1 ポイント低下し悪化に転じた。

資金繰り判断 D.I.は 0.0 と、前期比横ばいであり、人手過不足判断 D.I.は $\Delta 9.1$ と、前期比 9.1 ポイント悪化した。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 18.2$ と、今期実績比 18.2 ポイント低下し厳しさを強めた予想である。

小売業

業況判断D.I.(小売業)



～小売業の景況感は悪化～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 41.2$ と、前期比 17.7 ポイント悪化が強まった。

前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 5.9$ と、前期比 17.6 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は $\Delta 41.2$ と、前期比 17.6 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 29.4$ と、前期比 17.7 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 41.2$ と、前期比 5.9 ポイント低下し、人手不足感が強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 29.4$ と、今期実績比 11.8 ポイント改善を見込んでいる。

サービス業

業況判断D.I.(サービス業)



～サービス業の景況感は悪化～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 10.5$ と、前期比 36.8 ポイント低下し悪化に転じた。

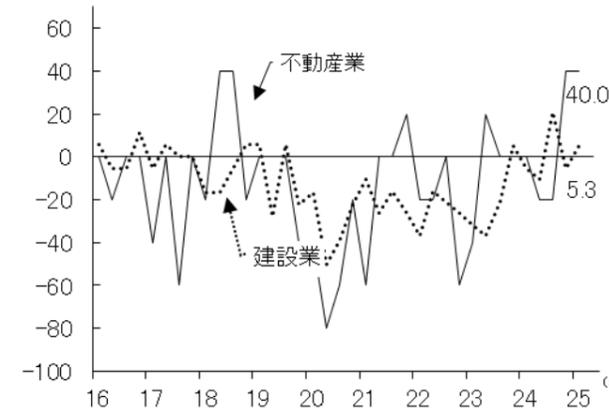
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 10.5$ と、前期比 26.3 ポイント低下し、収益判断 D.I.も $\Delta 26.3$ と、前期比 36.8 ポイント低下し増加から減少に転じた。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 31.6$ と、前期比 5.2 ポイント上昇し若干厳しさが和らいだ。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 42.1$ と、前期比 5.3 ポイント悪化した。残業時間判断 D.I.は $\Delta 10.5$ と、前期比 10.5 ポイント悪化した。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 15.8$ と、今期実績比 5.3 ポイント悪化を見込んでいる。

建設業、不動産業

業況判断D.I.(建設・不動産業)



～建設業の景況感は好転～

今期の建設業の業況判断 D.I.は 5.3 と、前期比 10.6 ポイント好転した。前年同期比売上額判断 D.I.は 10.5 と、前期比 10.6 ポイント悪化した。同収益判断 D.I.は $\Delta 5.3$ と、前期比 21.1 ポイント低下し増加から減少に転じた。受注残判断 D.I.は 5.3 と前期比 10.5 ポイント悪化した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 15.8$ と、前期比 15.8 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 42.1$ と、前期比横ばいとなった。来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 5.3$ と、今期実績比 10.6 ポイント低下し悪化を見込んでいる。

～不動産業の景況感は横ばい～

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、今期の業況判断 D.I.は 40.0 と前期比横ばいとなった。前年同期比売上額判断 D.I.は 40.0 と、前期比 20.0 ポイント上昇し堅調。同収益判断 D.I.は 20.0 と、前期比横ばいとなり、資金繰り判断 D.I.も 0.0 と、前期比 20.0 ポイント好転した。在庫過不足判断 D.I.は 60.0 と、前期比 20.0 ポイント上昇し在庫が増加した。来期の予想業況判断 D.I.は 20.0 と、今期実績比 20.0 ポイント悪化を見込んでいる。

調査員のコメント

製造業：物価高騰の影響により、売上と収益が減少し、対応に苦慮している企業も多い。

卸売業：需要が減少し、物価上昇も影響し、売上と収益が減少している。企業内資本があるため、現在は耐える時期と考えている。

小売業：兵庫活性化センターのプロ人材拠点を活用し、売上増加策を検討中。
宣伝・広告の強化により、売上の増加に取り組んでいる。

サービス業：売上が減少傾向にあり、若者世代への売上確保に取組中。

原材料の高騰により、収益は減少している。

建設業：新築住宅工事及び公共工事が減少し売上は減少している。売上価格の上昇が材料の高騰に追いつかず、収益は減少している。従業員の高齢化による人材不足が懸念される。

不動産業：賃貸事業は順調である。商品物件の高騰の影響あるも、業況は上向き。